

# 被災地から学び、力にする 富岡町 視察・研修ツアー



TOMIOKA PLUS

一般社団法人とみおかプラスは、  
視察・研修事業に取り組んでいます

東日本大震災による巨大地震と大津波により甚大な被害を受けるとともに、原発事故によって、およそ16,000人全ての町民が町外への避難を余儀なくされた富岡町。

町の空気が再び動き始めたのは、震災から6年が経過した2017年4月。一部帰還困難区域を除き、町の約7割の地域で避難指示が解除されました。2020年1月現在、町に帰還して暮らす人はおよそ1,200人。震災前の1割にも満たない状況ではありますが、少しずつ、しかし着実に復興の歩みを進めています。

(一社)とみおかプラスでは、富岡町を舞台に視察・研修事業に取り組んでいます。被災地のいまを肌で感じることができ町内視察のほか、この地域が直面した課題からの学びを広く社会に伝えていくため、研修ワークショップを準備しております。

## 町内復興状況視察

事務局スタッフがバス等に同乗し、震災時の出来事と教訓を踏まえたガイドを行います。

車中はガイドスタッフと近い距離にあることで、質問や疑問はその都度キャッチボールできる時間になります。

## 避難所運営ワークショップ (約120分)

東日本大震災に伴う原子力災害の事故によって、全町避難を余儀なくされた富岡町。本ワークショップは、実際に経験した避難所の運営を参考に、災害時に自分が経験する避難所での共同生活に必要なコト、自分の役割、取るべき行動を一緒に考えるものです。

大災害が頻発する昨今、発災当時を疑似体験することは、企業社員各々にとって危機管理意識の向上に寄与するものとなります。

## リスクマネジメントワークショップ (約240分)

福島第二原子力発電所視察 (約120分) = リスクマネジメントワークショップ (約120分)

福島第二原子力発電所視察では、東京電力職員の案内のもと、東日本大震災の大津波で損害を受け電源喪失となるも、炉心融解事故を回避した当時の状況を自分の眼で確認します。

リスクマネジメントワークショップでは、各々目の当たりにした福島第二原子力発電所の視察を経て、危機的状況に実際に対応した社員の行動を基に、精神的にも肉体的にも極限に近い状況になった場合にどうするかを知ることで、個人と組織、権利と義務、責任のあり方について深く考える時間になります。